

# Computer Report 7

2011 No.682

## 目 次

### 3 はじめの言葉

#### 4 ビジネスモデルの原点

##### なぜ世界に出ていくのか

田原文夫

ものごとを報告、解説する場合に数字を提示する。コンピュータをベースにした情報処理システムの醍醐味とも密着しているところである。しかし、この数字は使い方によって、真実をより正確に伝えることもできるし、逆に真実をねじ曲げて伝えるのに利用されることもある。数字の使い方の怖さである。これは、その数字を使う人に起因する問題である。これこそ最終的な情報処理は人間がするものであるという原則でもある。意図的に真実をねじ曲げる時、情報操作と言われる。伝えられる側は、常にこの情報操作の危機に曝されていることを意識しておくべきだ。先の東北関東大震災の犠牲者／被災者の数、福島原発で連発された放射性物質にかかわる数字もそうだが、国家の存立基盤にかかわる数字についてはなおさらである。政府、マスコミから流される数字情報によって、どれだけ人間の行動パターンが影響を受けるか、今回の震災後の激動の中で我々は、改めて思い知らされた。

#### 10 情報社会を考える その10

##### 情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

商用コンピュータが登場して半世紀以上が経過した。生まれながらにしてコンピュータがあるという世代が、歴史的事実として還暦を迎えたことになる。第二次世界大戦終結の年すなわち 1945 年を前後しての三大発明として知られるのが、高分子化学、コンピュータ、そして原子力である。前回は触れたことだが、いずれも戦争という人間の持つ狂気性が何かしらの発明を促す動機になっている。とまれ、高分子化学は、原油を材料にしたナイロン、ビニール、プラスチックを産み出し、我々に様々な身の回り品を提供してくれている。言ってみれば、人間が何とか活用仕切れてきている分野である。引き換え、原子力は到底利用仕切れるというレベルに達していない。今回、放射能洩れを引き起こした福島第一原発の事故は、それを嫌というほどに見せつけた。さりとて、重農主義から重商主義へと近代国家へ移行した結果、見事に花開いた工業社会だったが、今やコンピュータの登場で脱工業社会へと移行しつつある。すなわち情報社会への変遷を果たそうとしている。その原動力であるコンピュータ活用についても、大きな節目を迎えている。戦後 65 年、世界的にみても先駆的なコンピュータ活用国として情報社会の創出を担ってきている日

本だが、思えば、未成熟なコンピュータリソースを何とか駆使する歴史の積み重ねだった。しかしここに来て、コンピュータ資源、システムリソースは驚異的に豊富に、しかも手に入りやすくなってきている。そこで問われるのが、果たして、これらシステムリソースを使いこなせる人材が育ってきているだろうかという命題である。甚だ疑問である。情報社会を生き抜くにあたって我々は、コンピュータリソースを使いこなす人材育成も含めて、どう関与し、どう貢献していくべきであろうか。

## 16 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM構築が必要か その5

水田 浩

### コンパクトシティのパイロットプロジェクト

人件費という生産原価コストにおいて、世界で一番得意としてきた「もの作り」で大国ニッポンは大きなアドバンテージを海外に奪われてしまったままである。すでに数十年も前のことである。爾来、日本の製造業者は世界に安い労働賃金を求めて流浪の長旅に出ってしまった。もう帰って来てもいい頃だと思われながらも、一向に帰国する気配がない。製造会社を経営する一部の人達からすれば、至極当然のことなのかもしれないが、それがために数十年にわたって、働き場所を失った日本人労働者はもう限界の域にある。ニッポン政府だってすでに限界のはずである。国民に働く場所があって、国民の働く状況があって、初めて国家財政も成り立つもののはずである。多くの国民が労働の場所をなくし、労働賃金を稼げずでは、国家財政が健全になることはない。そこに起きた今回の東北東日本大震災である。一瞬にして多くの国民の生命／財産を奪い去った。住む場所、働く場所、学び遊ぶ場所を奪われ、改めて、大国ニッポンが失ってきたものの本質を思い知らされた。衣食住すべてを失った被災地の人々の復興を願う切なる思いから発想されているコンパクトシティプロジェクトを通じて、今日本が世界中から何を取り戻さなくてはならないかを考えてもらいたい。そして今こそ、世界中に輸出できる産業の創造を目指したい。

## 22 連載 アーキテクチャ論 (3)

エンタープライズアーキテクチャのマネジメント

山本修一郎

### 本連載の目標

情報システムでは、大規模化、複雑化、オープン化、サービス化、クラウド化が進展している。このように情報システムを開発、保守、運用する上でアーキテクチャの重要性が増している。本連載では、ソフトウェアアーキテクチャを中心にして基本概念を整理するとともに、技術、方法論の動向を紹介していく。また、The Open Group による TOGAF( The Open Group Architecture Framework)や OMG による SysML(The System Modeling Language)をはじめ、エンタープライズアーキテクチャ (EA) やシステムアーキテクチャ、さらには組織アーキテクチャなどについても幅広く紹介していく。

今回は、

- ① エンタープライズアーキテクチャ (EA)、
- ② 発展型システムのモデル、
- ③ 扱いにくい問題、
- ④ EA マネジメント・ソリューションの特性、

- ⑤ EA マネジメント方法論の統合化、
- ⑥ EA マネジメント・ソリューションの変化、などについて解説する。

### 30 多彩な部品パッケージ商品の台頭

#### 基本はシステム全体のセキュリティ対策

aism

木を見て森を見ずとか、木を見て山を見ずとか、言われ方はいろいろとあるが、目先のことだけを見て、それを全てと判断してしまう無責任ぶりが目に付く一方、あるいは、見えているもの以外は知りませんと、端から全体に対する責任から逃避する態度、言動がある。いずれにしても、部分のことしか自らの範疇としない姿勢が横行している。セキュリティ対策についても同様である。当該範囲を限定してのセキュリティ対策でなく、システム全体のセキュリティ対策をどう追求していくか。この基本点を忘れてはならない。

### 35 続インテリジェンスへのいざない ⑱

#### 汚染水処理のドタバタは

#### インテリジェンスの欠如が原因

今井 武

原子炉を冷やすための給水処理、そのために大量に排出された汚染水の処理と、次々に必要とされる作業がクローズアップされてくる。絵に描いたようなドタバタ劇、その場凌ぎ、姑息な作業の連続である。その挙げ句が、フランスからは 40 兆円もする汚染水処理装置の購入を決めた。アメリカからも別の高価な汚染水処理装置の購入を決めた。どうやら、放射能汚染水の処理には、各国から集めた部品システムを連動させる必要があるということらしい。これで、冷却用に原子炉建屋全体に注水したことで発生した汚染水の処理が解決するものと国民は期待した。しかし、稼働後 5 時間を経過したところで停止。周知の通りである。何とも、複数のベンダーから購入したシステム部品が連動しないオープンサーバーのような事態が、ここでも起こってしまったようである。ポケットマネーで買える PC ならまだしも、国家予算に匹敵するような高価な買い物でこれでは、国民はたまらない。それにしても、もたつきぶりには目を覆いたくなる。何が一番の原因かは判らないというのが最大のポイントである。本欄でいつも指摘することだが、国民がコンセンサスとして理解できる情報の発信に期待したい。

### 38 IT 新時代とパラダイム・シフト

#### 第 2 2 回 東日本大震災による

#### 銀行 ATM 停止の警告

根本忠明

東日本大震災で一番大きな問題の一つは、停電や節電要請により銀行 ATM が、機能麻痺寸前にまで至ったことである。この影響は、被災地のみならず首都圏全体に及んだ。しかも、銀行 ATM をはじめとする金融機関のシステム障害は、毎年のように繰り返されてきている。このような事態を放置し続ければ、首都圏に直下型地震が起きた場合には、日本全体の金融システムを麻痺させ、世界の金融システムを揺るがしかねない。今回は銀行 ATM の機能停止の実態と課題について整理し、次回にこの対策について報告する。

#### 4 1 一味違うウェブ検索

##### 第十二話 ウェブ検索の鍵となるキーワードを入手するには (2)

ぐうのうえぶへい

今回の震災報道で、政府や電力会社、大手メディアの情報発信に「情報隠し」や「情報操作」が疑われ、国民は改めて情報内容や情報源のチェックの大切さを知った。適切な情報にアクセスするには、適確なキーワードの入手が必要である。美味しいキーワードの入手方法を提案したい。

#### 4 3 連載 しすてむこらむ

- IBM、大規模データ分析の最新アプライアンス
- アルテア／富士通長野、CAE ツールで提携
- NEC、Android 端末の普及目指す

#### 4 6 連載 ことわざ笑タイム

すぎやまちヒロ

# Computer Report

ISSN 2186-2664 Print ISSN0385-6658

(7月号)

**JCOPY**

<(社)出版社著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、一般社団法人出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

禁無断複写複製転載 Copy Right All Reserved

お知らせ

求む！ ヒーローズクラブ入会希望者

「We are the HEROes」

ヒーローになろう

日本、世界中に漂う閉塞感を打破するために何が必要か

思い切り自由に、大胆になって、元気が出るクラブ

詳しくは

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

まで

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

**CR選書**

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの構造と	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**実践データ・ウェアハウス OLAP**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの落とし穴**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 匿名化された電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネットワークのための情報オーナーの課題
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2011年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の情報システム革新**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

『いざ！というときの得広報』  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー  
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本開拓手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍事務所移転と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開拓フル稼働とバンタンツ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番稼働日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの遅れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安定期間と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)